

令和3年6月30日

# 緑小だより

横浜市立緑小学校

7・8月号

ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

mail y3midori@edu.city.yokohama.jp

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

## 地域の皆様に支えられるみどりっ子

学校長 能城 順一

令和3年度も、はや7月を迎えることとなりました。昨年度と比較しながら、4月からのこの3ヶ月を振り返りますと、このコロナ禍でも、入学式・体育発表会・学級懇談会等、可能な教育活動を進めていくことができたこと、これはひとえに保護者の皆様や地域の皆様のお力添えのおかげと、心から感謝しております。本当にありがとうございました。

そんな教育活動の中で、6月9日には低学年に、6月16日には高学年に向け、地域ボランティアの皆様や保護者ボランティアの皆様が「読み聞かせ」をしてくださる、「おはなし会」も再開することができました。私は、9日も16日も子どもたちの様子を見に行きましたが、どの学級の子もたちも真剣なまなざしで、ボランティアの皆様の「読み聞かせ」に耳を傾けていました。およそ半年ぶりとなるその光景に、私は、自分の小学校低学年時代のことを思い出しました。それは、私がとても楽しみにしていた「紙芝居屋さん」の存在です。私は、四国の香川県で高校卒業まで過ごしましたが、小学校低学年時代の一番の楽しみであったのが、毎週日曜日の10時頃、舗装もまだされていない住宅街の決まった一角に必ず来てくれた「紙芝居屋さん」なのです。私を含む多くの子どもたちが、その時間をとても楽しみにしていて、5円でしたか10円でしたか、記憶はあいまいですが、お金を握りしめて「紙芝居屋さん」の前に集まって行ったのです。お金を払うと「べっこう飴」ももらえたので、私はいつも飴をなめながら「紙芝居屋さん」のお話を夢中になって聞いたものです。特に、「黄金バット」や「赤胴鈴之助」は、続き物でもあったので、途中で終わったりした週などは、次週が待ち遠しくてなりません。そんな「紙芝居屋さん」も、テレビの番組が白黒放送からカラー放送になった頃には、街角に姿を見せてくれなくなりましたが、私にとってその思い出は「宝物」のようであります。今はデジタル時代、多くの子どもたちにとってスマホやiPadを使うのが日常であり、4K8Kの映像すら珍しいものではありません。しかし、私は、本校の「読み聞かせ」を聞いている子どもたちの中にも、毎週の「読み聞かせ」の時間を、小学校低学年時代の私のように心待ちにしている子が多くいることと思っております。ボランティアの皆様は心を込めて読んでいただいている「読み聞かせ」が「宝物」となり、小学校時代の大きな思い出となる子どもも、きっといることと思えます。ボランティアの皆様、本当にありがとうございます。心より感謝いたします。

6月には、本校学区の地域の皆様のありがたさ・温かさを改めて感じた出来事もありました。生活科の学習で「まちたんけん」に出かけた2年生のあるクラスが、突然の大雨に見舞われた時の出来事です。30名の子どもたちは、地域の方のご好意で、屋根付きの車庫の中で雨宿りをさせていただいた上に、レインコート替わりと、一人ひとりビニール袋をいただいて、学校に無事に戻ってくることができました。また、違う方は、引率の教員に、ご自宅の傘を3本「遠慮しないで使ってください」と貸していただきました。どちらのお宅にも、私は、夕刻にお礼に伺いましたが、地域の子もたちを心から心配して下さるお気持ちに、胸が熱くなりました。

教育活動は、子どもたちに対する教職員の支援に加えて、地域の皆様や保護者の皆様の励ましが加わると、その効果は何倍にも増していきます。緑小学校の子どもたちは、本当に恵まれています。今後とも、本校の教育活動への変わらないご理解ご協力を、よろしく願いいたします。また、長い夏休みを迎える子どもたちを、引き続き見守ってくださいますようお願いいたします。